

# はくととはくと

Shinkomonji Hospital

新小文字病院

2016.7

Vol.38

ご自由に  
お持ち帰り下さい

脳神経外科部長 藤村 陽都

私の履歴書・診療録(カルテ)

平成28年 新小文字病院 医療連携会を開催

医療連携会の体制を強化

当院のDMATチームが熊本地震で初出動

当院は門司区唯一の災害拠点病院

「在宅療養後方支援病院」の施設基準を取得

「開放型病床」の施設基準を取得

かかりつけ医②

渡辺胃腸科医院

トピックス・施設参加型研修

安全管理「転倒・転落」について

# 私の履歴書

カルテから患者さんの生活が見えてくる。そんなカルテは素晴らしいものだとよく言われますが、今日は私の履歴や生い立ちを面白く可笑しく、そしてユーモアたっぷりにカルテ風に書いてお届けしましたので、患者さんのカルテが普段どのような形式で書かれているのかを、ちょっとだけのぞき見して、皆さんに楽しんで頂ければと思います。



脳神経外科部長  
フジムラ ユウト  
藤村 陽都  
佐賀大学医学部卒業

資格  
日本脳神経外科学会専門医

所属学会  
日本脳神経外科学会  
日本神経内視鏡学会

## 私の診療録・カルテ

氏名	藤村 陽都	年齢	34歳	性別	男	保険者番号	1234567890
住所	800-0057 北九州市門司区大里新町2-5 新小文字病院内						

【主訴(野望)】	・脳神経外科部長として、患者さんと病院スタッフに求められるようになりたい。
【現病歴(生い立ち)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和56年出生。幼少期を神奈川県で過ごし、標準語をマスター。</li> <li>・7歳時に大分市へ転居、数か月で大分弁をマスター。</li> <li>・中高は私立の男子校に入学し、屈折した思春期を過ごした。</li> <li>・医師を志し、平成12年佐賀医科大学(現佐賀大学医学部)入学。</li> <li>・大学ではヨット部に所属。真夏になってもあまり日焼けしない体質がコンプレックスであった。6年後、医師国家試験に合格し福岡和白病院に入院(入局)。</li> <li>・入院当時は救急医や循環器内科にあこがれていた。しかし、2年間の研修の間に、致命的な状態から劇的な回復の経過をたどる脳外科患者さんや、日夜を問わずに救急患者の診療に携わる脳外科医師にインスピレーションを受け、医師3年目からは脳神経外科を専攻。その後は池友会の関連病院を転々としながら脳神経外科医としての経験を積む。</li> <li>・平成24年8月 脳神経外科専門医資格を取得。</li> <li>・平成25年12月より新小文字病院脳神経外科に入院。</li> <li>・以後、憧れの増田先生からマンツーマンの技術・知識の指導、同僚・コメディカルスタッフの協力などを得て、平成27年10月脳神経外科部長となった。</li> </ul>
【既往歴・家族歴】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先天性股関節脱臼</li> <li>・先天性斜頸(5歳時 手術歴あり)</li> <li>・小児喘息</li> <li>・アトピー性皮膚炎</li> </ul>



・12歳時、運動会の前日に右足骨折。小学校最後の運動会を棒に振る。
・父親は本人7歳時に病失。
・これらの経歴が医師を目指すきっかけになった様子。
【生活歴】
・趣味 同僚と麻雀
ミステリー小説(最近あまり読む時間がない)
料理(最近は煮物の勉強中。お手頃価格で美味しい味噌を教えてください)
野球観戦(なかなか球場に行けない)
・アルコール 摂取不能 お菓子についてるラムレーズンで若干酔うらしい
・好きなもの もずく くらげ 酢モツ 砂肝 塩キャベツ ブロッコリー
・座右の銘 笑う門には福来る
【身体所見(風貌・スタッフの印象)】
・身長177cm 体重70kg 腹囲84.5cm
・くせっ毛、眉毛薄い、一重まぶた、目細い、団子鼻、おちよぼ口、猫背、部長オーラは纏っていない(いい意味で?)
【検査所見】
・血液型B型、視力 両目とも2.0(自称)、てんびん座、悪玉コレステロールがやや高い
【診断】
・①お酒飲めないのに居酒屋メニュー好き症候群 ②部長オーラ単独欠損症
【治療方針】
・診断①については、日常生活の支障となるものではなく、本人も問題とは思っていない様子。将来血圧上昇の危険性があるかもしれないが現時点では特に治療を要しないと考える。希望があれば自己努力により改善して頂く。
・診断②については、本人のコンプレックスとなっており、当院としても早急な治療が望まれるが、特效薬がない。そのため、下記処方を適宜使用していただきながら、当院のような適切な環境下で経験を積み自己研さんして頂く方針とする。今後の経過については、地域の患者さんやその家族、医療関係者に見守っていただくこととする。
【処方内容】
・リ○ビタン1日1本 疲労時



### 追伸

今回は脳神経外科のために、これ以上の紙面枠を割いてもらうことが叶わず、次回、発行予定の10月15日号に脳神経外科センターの診療と実績をご紹介しますので、次回号もぜひお読み頂きたいと思っております。

# 医療連携会の体制を強化し開催

毎年2回、地域の医療機関の先生方や介護施設の方々との勉強会として、外部のホテルで開催してました従来の学術講演会を、今後は当院の大会議室へ場所を移して実施します。そして外部の先生方を講師として呼び、勉強会の開催を多くして、医療情報の発信の機会を増やしていきたいと考えています。

また、今後は当院の方針としまして、国が推奨しています医療・福祉機関の機能分担に積極的に取り組み、地域医療機関の先生方や介護施設の方々のご意見やご要望に速やかに対応するため、医療連携会を層強化して皆さまのご期待に添うよう努めたいと考えています。



新小文字病院と医療連携している医療機関の先生方や、介護施設の方々との交流を深めるため、28年度の医療連携会が6月21日午後6時からステーションホテル小倉飛翔の間で開催されました。

医療連携会の医療機関、介護施設には、口頃から患者様をご紹介いただくなど連携を深めています。連携会は医療機関、介護施設と当院の各診療科スタッフとの交流と勉強会や医療情報の提供などを兼ねて開かれたもので、医療機関や介護施設などの261名と当院の各診療科の医師たちが参加しました。

連携会は宗副院長の司会で始まり、甲斐院長が口頃のご厚誼と患者様のご紹介に対してお礼を述べ、「いま医療界は、地域医療構想という大きなうねりの中に置かれています。その中には二つの柱があり、一つは病院機能、もう一つは医療連携です。この機能分担と連携という二つのテーマに私どもは必至に取り組んでいます。今日はそのような

現在の病院の様子が色々な点で分かるような各診療科のパネル展示などで工夫をしていますので、短い時間ですが、私どもの現在の姿をご覧になっていただき、これからは地域の中で技術的な実のある連携を皆さんと一緒に頑張って作り上げたいと思っています」と挨拶をしました。

この後の各診療科の紹介では、各診療科部長がスライドを使い自己紹介と診療科の案内やPRを行うと同時に、今後の抱負と決意を述べました。さらに、今年4月に入職した新任部長医師も自己紹介を兼ねて、新たに新設されたそれぞれの診療科のPRを行いました。

各診療科紹介の終了後、別室で開かれた懇親会で、門司区医師会の白石会長は「いま、医療は在宅患者様をどのようにフォローしていくかという問題を抱えていますので、これまで以上に地域の開業医と総合病院が病診連携を取って上手に構築していきたい。そして地域の皆様により良い医療を提供できるように、皆で取り組んでいきましょう」と来賓祝辞を述べられた後、北九州市立医療センターの豊島院長の乾杯でご参集した

15日未明の午前1時40分に出勤要請の電話が入りましたので、急いで病院へ駆けつけて、チームの井上、成田の両看護師、医事課の武田君の3人と合流して、救急車で出発。集合場所の熊本赤十字病院へは午前5時30分頃に到着しましたが、地震発生から10時間ほど経過後の到着となりましたので、本当にこの地で大地震が起きたのかと思うほど、もの静かな感じでした。

では、DMATの役割は何なのか。また、どのようなサポート業務を行うかと言いますと、医療支援と通信システム機能、病院の損壊、ライフライン、傷病者の診療体制が維持されているかを、急いで病院を訪ねて実情を調査し、それを本部に連絡すること。さらに傷病者の病院間の搬送です。大規模災害では消防隊のみでは不足します。我々も救急車で行き救急隊員と同じ業務もしますので、医療業務というより、むしろこのような業務が主なものとなります。

DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持った トレーニングを受けた医療チーム」で災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team)の頭文字をとって略してDMAT(ディーマット)と呼ばれています。医師、看護師、医療職、事務職員などで構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。

## 当院のDMATチームが熊本地震で初出勤

4月14日の21時26分に熊本で大地震が発生

療支援と通信システム機能、病院の損壊、ライフライン、傷病者の診療体制が維持されているかを、急いで病院を訪ねて実情を調査し、それを本部に連絡すること。さらに傷病者の病院間の搬送です。大規模災害では消防隊のみでは不足します。我々も救急車で行き救急隊員と同じ業務もしますので、医療業務というより、むしろこのような業務が主なものとなります。

今回、行った業務の二つは病院の調査です。到着した熊本市の病院は、損害も少なく、すでに通常の診療が行われていて、私たちが医療の応援をする場はなく、その病院での業務は終わりました。次に行ったところは益城町役場の本部救護所のお手伝いです。私が実際に診察した人は、手を怪我した人の縫合と転倒で肋骨に異常が見ら

れる人でした。さらに同町の他地区へ移動し、病院調査を行いました。そこは停電で真っ暗闇でしたが、その中にライフラインが完全に損壊した病院がありました。患者さんの多くはすでに搬送済でしたが、一部の患者さんが残っていましたので、その調査に入り、これ以上の診療継続は無理との情報を本部に連絡しました。

その後、深夜の12時頃に撤収しましたが、その2時間後の帰途中のサービスエリアで休憩中にあの本震が起きました。現場で震度3程度の経験はありませんが、あのような大きな地震に出会うと、やはり訓練と本番とは随分と違うことを実感しました。

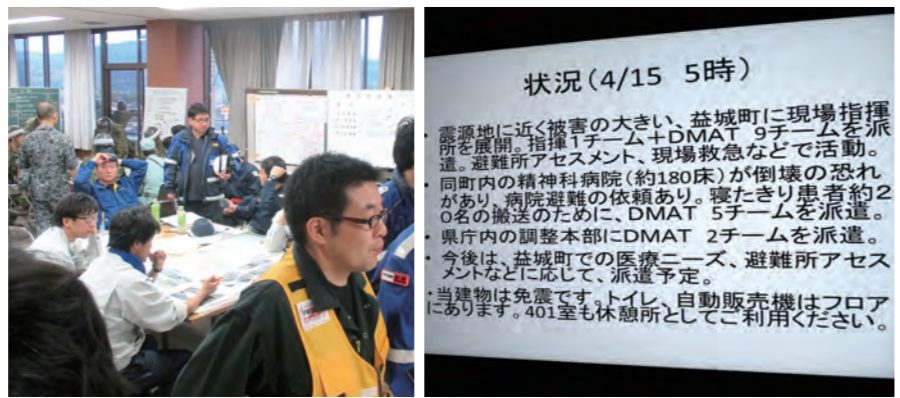
今回、強く考えさせられたのは、DMATはどのような状況の下で活動できるのかということと、活動自体に難しいことではなく、早朝着で深夜の12時の撤収でしたから、通常業務の日勤から当直の感じでしたが、現場ではトイレや休憩場所もな

く、余震の不安で心理的に疲労感があるうえ、隊員の危険性を考えると、私は引き返すのはとても難しいと思いましたが、「一緒に若い人達は被災者の人達を診てあげたい」という気持ちが強くなり、戻って救援しようと言います。それが若さと医療に携わる人の職業観や正義感なのかと感じました。

ただ、DMATというのは医師、看護師、医療職、事務職などチームで行動しますが、今回の大地震のような場合には、主に自衛隊の役割が大きく、むしろ我々は医療活動より搬送だとか病院調査などが大きな役割だということを今回、学びました。逆に、高速道などでの集団災害や事故時には自衛隊の出動がありませんので、我々医師や看護師がとも必要とされると考えます。それと72時間の活動です。とても3日間、現場での活動は難しいと感じましたので、今後、当院はチームを増やし交代制での活動を検討したいと考えています。

日本DMATの大きな活動は東日本大震災以来だと思えますが、ほとんどの隊員は口頃から訓練を行っています。本番は未経験ですので、いつでも対応が可能ないように心がけていなければいけません。今回のようなことが、もし九州周辺で起きたら、確実に同じ状態となり、災害拠点病院の当院に大量の傷病者が運ばれますので、早期に対応を整えておかなければいけないと考えています。今回の出勤は今後の参考にになりました。

(副院長 遠山 奈雅博)



だいた連携機関の方々や当院各診療科スタッフとの懇談が始まり、和やかな雰囲気なかで活発な意見交換が行われましたが、最後に遠山副院長の閉会の挨拶で懇親会を終わりました。



九州大学放射線科の恩師、入江英雄先生の座右の銘「病む人の気持ちを」を常に心に持ちながら診療を行っています。地域の方々の「かかりつけ医」として今後も頑張っていくつもりです。当然、新小文字病院を中心に、病診連携の実を更に高めていきたいと考えています。



日本消化器がん検診学会 胃専門医  
 日本臨床内科医学会 専門医  
 日本東洋医学会会員  
 わたなべ のりふみ  
**渡辺 教文**



診察時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:30	○	○	○	○	○	○
午後 14:00~18:00	○	○	—	○	○	—

**医療法人 渡辺胃腸科医院**  
 診療科 内科、消化器内科(胃腸内科)、放射線科  
 〒800-0112 北九州市門司区畑1423番地10  
**TEL 093-481-3225**

～かかりつけ医紹介⑫～

クリニックの特徴・特色と  
病院の概要を教えてください

当院は昭和50年1月の開設です。当初は消化器がんの早期発見に力を注いで参りました。現在では、成人病予防、特に生活習慣病対策に重点がおかれています。当然ながら、地域の小診療所として一般内科診療の比重が増えています。又福祉の里の近隣にあるため、特別養護老人ホーム、小規模介護施設への往診や指導などが多くなっています。新門司工業地域への産業保健活動も福岡県産業保健センターに協力して実施しています。

新小文字病院との連携について

新小文字病院が大里地区に移転してから、当院の診療態勢が大きく様変わりしてきました。急性期医療の大半は、心臓疾患を除き、新小文字病院のお世話になることが多くなっています。とりわけ脳神経外科、内科、呼吸器外科には、特別に大変お世話になっております。手間を多く取る認知症患者さん達を含めて、肺炎等の入院治療は、大部分、新小文字病院にお願いしております。当院にとって病診連携を進めるためには、新小文字病院が重要な病院であります。

今後の目標と仕事をする上で、心がけている事

九州大学放射線科の恩師、入江英雄先生の座右の銘「病む人の気持ちを」を常に心に持ちながら診療を行っています。地域の方々の「かかりつけ医」として今後も頑張っていくつもりです。当然、新小文字病院を中心に、病診連携の実を更に高めていきたいと考えています。

地域の皆様へのメッセージをお願いします

ITを駆使する先進医療、新しい局面の移植医療等、目覚ましい医療の発展を目にしております。町医者として地域に密着した「かかりつけ医」の基盤に立ち地域の皆様の健康を支え、より良い相談者として進んでいきたいと思っております。

当院は門司区唯一の災害拠点病院

災害拠点病院とは

災害拠点病院とは、災害時の救急医療を効率よく提供するための拠点となる病院。福岡県では、国立病院機構九州医療センターを基幹災害拠点病院として、24病院が指定されています。このうち当院グループの中では新小文字病院、福岡和白病院、新行橋病院の3病院が入っています。

北九州市は全部で7病院が指定されており、門司区では新小文字病院のみが指定されています。

災害拠点病院の役割とは

福岡県内や近県で地震、火災、津波、事故などの大規模災害が発生した場合に初期救急の中心的な役割を担う。また、通常の医療体制では被災者に適切な医療を確保することが困難な状況となった場合には、福岡県知事の要請により被災傷病者の受け入れや医療救護班(DMA T)の派遣等を行います。そういふ非常時にそなえた訓練の一環として当院では毎年



2回、北九州市消防局によるヘリコプターの離着陸訓練が行われていますが、今年も5月26日の昼と夕方に2回実施されました。

災害拠点病院の要件

24時間緊急対応し、災害発生時に被災地内の傷病者等の受け入れ及び搬出を行うことが可能な体制を有することや施設は耐震構造で、災害時に対応可能なスペースの敷地を確保でき、原則として敷地内にヘリポートを有すること。また、応急用資器材、自家発電機、応急テント、簡易ベッド等を有するほか診療に必要な水が確保できることなどで自己完結できること等が要件です。

「在宅療養後方支援病院」の施設基準を取得

平成28年3月からスタート

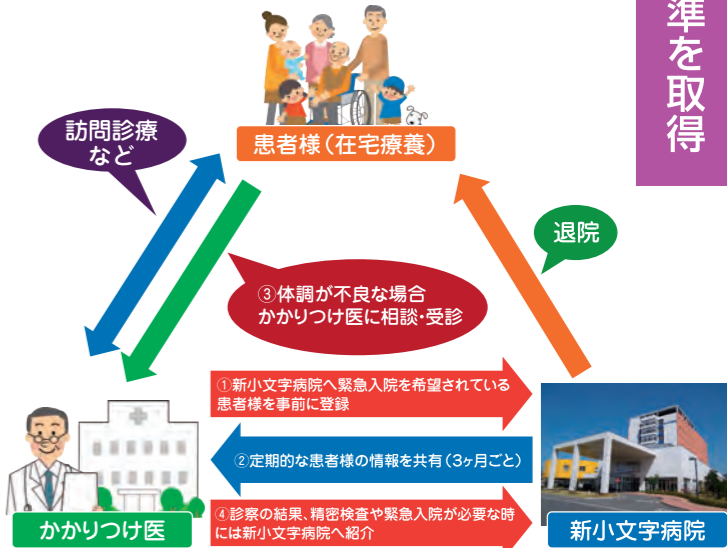
「在宅療養後方支援病院」とは、在宅療養をされている患者様やご家族が安心して自宅で過ごせるように、かかりつけ医(在宅医療担当医)と新小文字病院が連携して診療を行う制度です。あらかじめ、かかりつけ医より登録されている患者様に関する緊急時に入院が必要とかがかりつけ医が判断した時に在宅療養を後方支援する病院として緊急時に24時間迅速に対応し、必要に応じてスムーズに受診・入院の受け入れを行うことで、患者様の常日頃の緊急時の不安を取り除くことができます。

また、緊急時に初めて診る患者様だと迅速な対応が難しい場合もありますので、初めての患者様であっても日頃からきちんと情報を把握していれば、事前情報のない患者様とはまったく異なる迅速な対応が出来ると思います。万、より専門的な治療が必要であると医学的に判断した場合には、適切な医療機関にご紹介いたします。

「開放型病床」の施設基準を取得

平成28年4月からスタート

「開放型病床」とは、患者様のかかりつけ医でなおかつ当院へ事前に登録されている登録医と当院の医師が、共同して患者様の治療を行えるものです。当院と連携のある地域の先生方登録医と共同して患者様の治療を行うことができ、より質の高い治療の実現と医療の継続性を確保して診療内容を向上させることで患者様と医師との関係を良好にし、患者様の管理の



在宅療養後方支援病院の流れ

継続性にもつながり、退院までの流れがより円滑に行えます。新小文字病院では開放型病床として、4階病棟・8階病棟に各1床設置しています。

**開放型病床利用の流れ**  
 医療連携機関(登録医)  
 開放型病床利用届出書

**新小文字病院 お問合せ先**  
 新小文字病院医療連携室  
 平日・土曜日 8時30分~17時  
 TEL 093-3391-1001(代表)  
 FAX 093-3391-7765

## 基本方針

### 高度医療

学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

### 総合医療

患者様と医療情報を共有し、急性期治療から早期リハビリ、在宅医療まで一貫した、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。

### 地域医療

地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。

## 患者様の権利と責務

#### 1. 平等な治療を受ける権利があります。

患者様は、その社会的経済的地位、国籍、人種、宗教、年齢、病気の種類によって差別されずに、平等な治療を受ける権利を持っています。

#### 2. 治療を自己決定できる権利があります。

患者様は、医師による明確でわかりやすい言葉で十分な説明を受けた後で、治療を受ける権利、あるいは治療を受けることを拒む権利があります。

#### 3. 情報を知る権利と情報を提供する責務があります。

患者様は、医師による診断・治療、または変わり得る治療方法・予後、今後予測される問題に関して知る権利を持っています。患者様は、自身の症状や健康に関する正確な情報を提供し、治療に積極的に参加する責務があります。

#### 4. セカンドオピニオンを受ける権利とプライバシーが守られる権利があります。

患者様は、自分の医療内容に対して、医師と共同して選択する権利、他の医師からの意見・相談を得る権利、いかなる場合であっても人格的に扱われ、患者様自身の診療に関する全てのプライバシーに関して、万全の配慮を受ける権利を持っています。

#### 5. 相談する権利があります。

患者様は、十分な情報を得、利用可能な財政的支援について相談する権利を持っています。

#### 6. 良質な医療を速やかに受ける権利があります。

患者様は、効果的医療行為を速やかに行われることを要求する権利、継続的に支持、検討された質の高い医療を受ける権利を持っています。

#### 7. 病院秩序を守る責務があります。

患者様は、全ての患者様が安全で良質な医療を受けられるように配慮して頂くとともに、職員が適切な医療を行うことを妨げないよう協力する責務があります。また、医療費を適正に支払う責務があります。

## トピックス 施設参加型研修・安全管理「転倒・転落」について

### 参加者が大幅に増える

地域の医療・介護施設の職員を対象にした、平成28年度の「施設参加型研修会」の第1回目は『安全管理「転倒・転落」について』をテーマに当院の研修室で5月19日に開催しました。参加者は22施設(昨年比22%増)43名(昨年比30%増)で昨年より大幅に増え、担当者としては嬉しい悲鳴の勉強会になりました。

施設参加型研修会は今年度で3年目に入りました。同じテーマでも毎年、研修会での講義内容や実技を充実させ、運営方法なども工夫し、見直しを加えて、より質の高い、なおかつ参加者のすべての方々にご理解頂けるようにわかりやすい講義内容にすることなどを心がけています。

そのため、①今年度より一方向からの講義のみでなく、事前にアンケートを頂き、知りたいことや日頃から疑問に感じられていることなども講義内容のなかに含み説明を致しました②研修終了後に頂きましたア

ンケートのご質問や疑問項目に対しましては、後日、文書で回答致しました③研修会の講師、担当者以外に各々の担当師長が加わり病棟の特徴を紹介するなど、あらたに工夫、改善を加えました。

今後も様々なテーマで研修会のプログラムを組んでおりますので、ご案内の際には、ご参加をお待ちしております。



### 新小文字病院 平成28年度施設参加型研修会開催予定のご案内

実施予定日	研修テーマ	講師
8月18日(木)	褥瘡について2-① ～褥瘡はどのようにできてどのように治るのか～	皮膚創傷ケア認定看護師 18時～19時
9月15日(木)	褥瘡について2-②(①②シリーズ) ～褥瘡はどうやって治すのか?～	皮膚創傷ケア認定看護師 18時～19時
10月20日(木)	感染対策について2-① ～正しい手洗い方法と手洗いチェック～	感染管理認定看護師 18時～19時30分

(毎月第3木曜日・18時～19時 実践含む研修 18時～19時30分)※時間変更になる場合もあります。

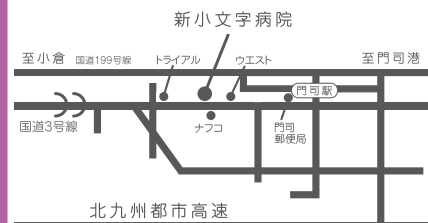
## 診療科目ご案内



内科・消化器内科・循環器内科  
内分泌・糖尿病内科・呼吸器内科  
外科・呼吸器外科・整形外科  
リウマチ科・形成外科・皮膚科  
泌尿器科・放射線科・脳神経外科  
脊椎椎外科・救急科・病理診断科  
リハビリテーション科・麻酔科



### Access map



西鉄バス 新小文字病院前バス停で下車すぐ

### 駐車場のご案内

ご来院の際は400台  
収容可能な駐車場をご利用ください。

- 外来者 / 手術付添 / お見舞い (家族・親戚)  
4時間まで100円・以降1時間毎に200円
- 業者・お見舞い (一般)  
1時間まで100円・以降1時間毎に200円

## 新小文字病院を 身近に感じる広報誌

### Vol.38

2016年7月15日発行  
企画：社会医療法人財団友会  
新小文字病院 広報委員会  
〒800-0057

北九州市門司区大里新町 2-5

TEL : 093-391-1001

FAX : 093-391-7001

E-mail : info@shinkomonji-hp.jp

http://www.shinkomonji-hp.jp

新小文字病院

検索

Design

NPO 法人 列島会  
創造館クリエイティブハウス 印刷事業部